

乳母が墓

高野瀬区の北西側、県道鯛生菊池線沿いに4基の墓があり、昔から乳母が墓と呼ばれていました。菊池氏（または赤星氏）の乳母が子守歌で「この城がめ（亀）城、前から攻めればかみつぐが、後ろからならグワラ、グワラ」と歌っていたのを大友軍の間者に聞かれ、菊池本城は裏から攻められて落城したと伝えられています。

女性の墓は1基のみで、手前から2基目の墓に「妙法院尊聖寛文九乙酉と書かれており、乳母の墓といわれています。他の墓は男性の墓で、音光寺関係の僧侶の墓だと思われず。お乳の少ない母親が、甘酒などを供えてお参りするとお乳が出るようになるといわれる乳母が墓は、これからも高野瀬区の宝として大切に守られていきます。



認定番号第ふるさとH24-23号
推薦者 高野瀬区

親子地蔵

江戸時代中期、北小路（今の菊池高校裏の道）近くの屋敷に奉公していた娘が、祭りに連れて行って貰えなかったことを恨んで屋敷に火をつけました。娘は放火犯として玉祥寺の河原で処刑されたので、娘の母親は悲しさのあまり姫女淵に身を投げました。村人は2人の霊を弔うため、延享5年姫女淵近くの三叉路に親子のお地藏さまを建て

「親子地蔵」と呼び供養しました。子ども地蔵がそばに寄り添っていました。行方不明になっています。「よだれかけ」や「火起こし竹」を供えると、子どものよだれくりを治し、火起こし竹で子どもの耳を吹けば、よだれが良くなるといわれています。親子地蔵もまた、高野瀬区の宝物として守られ続けていきます。



認定番号第ふるさとH24-24号
推薦者 高野瀬区

菊池夢美術館情報

問い合わせ先 菊池夢美術館 ☎0968(23)1155

第11回きくちわいふのひなまつり
期間 ~3月16日(日)

期間中はたくさんの楽しい企画があります。イベント情報をチェックして菊池の春をどうぞお楽しみください。



菊池の風景写真展

期間 3月17日(月) ~4月6日(日)

菊池観光協会主催で募集した菊池市のさまざまな風景の写真30点~50点を展示します。



開館時間 午前9時~午後6時

*期間中の閉館日はありません。ひなまつり期間中は常設展示を行いませんのでご了承ください。

わいふ一番館だより

問い合わせ先 わいふ一番館 ☎0968(24)6630

吊るしびな展示会 吊るしびな愛好会

期間 ~3月16日(日)

楽しいひなまつりの行事に、吊るしびなを添えました。女の子の健やかな成長と幸せの願いを込めた作品です。

絵手紙展(私たちの1年間の取り組み) 夢美会

期間 3月18日(火)~3月30日(日)

上手にかくより、心を届けることを大事にして交流してまいりました。そんな一年間の集大成です。ぜひご来館ください。

【まちかど資料館・企画展示室】

菊池一族の墓碑を巡る

~24代栄枯盛衰の果て菊池一族ここに眠る

期間 ~3月30日(日)

菊池一族は約450余年もの長期にわたり中世の混乱の時代、菊池の繁栄を保ち続けました。また、征西府を菊池・太宰府に置き九州の統一をも図りました。広域に点在する菊池一族の墓碑を巡り、一族の功績をたどりまします。
*休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)



茶摘み



田植え

対象 小学1年生以上の子どもとその保護者
参加費 宿泊 2千円
日帰り 1500円
(食費、宿泊費、保険料込み)
開催期間 毎月1回開催
4月~12月
水源地域のおじいちゃん、おばあちゃん、の指導を受けながら、農作業から加工品作りまで「食を育てる親子体験」に参加しませんか。

お問い合わせ先
きくちふるさと水源交流館
0968(27)0102
「ふるさと緑の便り」
菊池グリーンツーリズム
本市のグリーンツーリズム推進施設である「きくちふるさと水源交流館」では、親子で参加する農業・自然体験を提供しています。体験を通して、里山のおいしい食べ物や自然に囲まれて暮らす人々の知恵を学ぶ食育プログラムが「おいしい村」です。4月から12月の期間で、稲作(田植え、稲刈り)を中心に、季節を感じる体験プログラムを行っています。

韓国発見シリーズ ⑥
「はんにちは全部です」
韓国の寺小屋、青鶴洞書堂
日本の寺小屋に当たる韓国の昔ながらの「書堂」が最近人気である。ある新聞報道によると、韓国南部に位置する智異山の青鶴洞にある一つの書堂が、中学校過程を認定される正式な代替学校に変わるそうだ。

朝はテコンドーなど伝統武道の授業を受け、午後からは儒教の名句を集めた「明心宝鑑」や「唐詩」など各種古典を勉強する。また近くの溪谷に行くと自然の中で授業をするなどの特別なプログラムもある。

韓国の書堂は、高麗時代から朝鮮時代にかけて続いた庶民のための私設教育機関だった。当時の書堂では教師を「訓長」、クラスをまとめる班長を「接長」と言った。7、16歳の児童が中心だったが、20、25歳の大人がいる場合も多かったと言う。教育科目は「千字文」「小学」や儒教の基本的な教えである「四書」「三経」「史記」などがあり、暗記や読み書きが中心だった。冒頭の学校は2005年、「青鶴洞文化院書堂」としてスタートした。この書堂では昔のように髭の長い先生が、全国から来た子どもたちに「千字文」など漢学を中心に教える。子どもたちはこの書堂に寄宿しながら伝統や礼節などを学ぶ。制服は改良された韓服を着用

現代版の書堂教育は昔のように出世のための勉強ではなく、子どもに礼儀正しさや品行方正などの人格教育に重きを置いている。同時に、現代に合わせた多様な教育も行いながら各個人の能力を培い、磨く役目も果たしている。特に、既存の学校に適応できない子どもたちには書堂教育が勧められている。そのため青鶴洞近隣の書堂には最近生徒数が増えているという。韓国の入試競争は、日本でもニュースになるほど国を挙げての大事である。それと同時にその波に乗れない学校不適応児など、多くの問題を抱えているのが現状だ。そんな中での書堂教育への見直しは、学歴第一だった今までの反動か、人格教育を求める人たちにとってはまさに必要な学校だろう。